

# 九 防 協 年 報 2 0 2 1

2 0 2 1 年 度 ( 第 5 1 年 次 )



2 0 2 2 年 3 月

一般社団法人 九州病虫害防除推進協議会

## 序

一般社団法人九州病虫害防除推進協議会（九防協）は1970年（昭和45年）に創立され、2010年（平成22年）4月からの法人化を経て、今年度で創立51周年を迎えることになりましたが、福岡県では新型コロナウイルス感染症に対して2021年の年明けから今年度末まで、3回の「緊急事態宣言」と2回の「まん延防止等重点措置」が発出されたため、昨年度に引き続き、新年賀詞交歓会、創立記念講話会、技術研修会などが中止、運営委員会、評議会（旧運営会議）は書面会議に変更になるなど、九防協のほとんどすべての事業が中止、あるいは変則的な運営を強いられることになりました。このため、本来なら本年報に掲載されるはずの九防協創立記念講話会、果樹や茶樹技術研修会の報告等が欠けることになり、今年度の年報もかなり寂しい内容になってしまいました。

九防協の重要な事業の一つである「病虫害防除法改善連絡試験」の設計会議や成績検討会も新型コロナの影響で県関係の出席者が数名程度のこともあり、会議を開催したとしても十分な検討ができるのかが危惧されることも度々ありました。事前に主査と受・委託機関の関係者、九防協とでメールや電話で資料の検討を行い、会議に出席できない方には当日、リモートで参加していただくことで、試験成績書や主査設計書をまとめあげることができましたが、やはり一刻も早く関係者一同が対面で討議でき、終了後の懇談会で十分な情報交換ができる会議に戻ることを願わずにはられません。

上記の連絡試験の課題設定にも大いに関係する九州各県の病虫害の発生状況ですが、2021年度は昨年、一昨年のトビイロウンカのような「注意報」、「警報」級の多発生はなかったものの、気になる病虫害の発生がありました。サツマイモ基腐病とトマトキバガです。サツマイモ基腐病は2018年11月に沖縄県で本邦初発したあと12月に鹿児島県、翌2019年1月には宮崎県、2020年には福岡、熊本、長崎の3県でも確認されおり、2021年度には鹿児島、宮崎両県では注意報が発表されました。トマト、ナス、ピーマン、ジャガイモなどのナス科野菜を加害する

トマトキバガは2021年10月に熊本県で本邦初確認されたあと、今年度末までに佐賀県、長崎県を除く5県で発生が確認されています。この両病害虫が懸念されるのは、九州は全国有数のサツマイモやナス科野菜類の生産地であるため、発生が増加し、被害が拡大すると農家経営に極めて大きな悪影響を及ぼすと考えられ、すでにサツマイモでは基腐病による減収により、生食用の他、宮崎、鹿児島では芋焼酎の製造にも大きな影響がでているとのTV、新聞報道がありました。両病害虫の防除に効果が期待される新旧開発農薬があれば、九防協の連絡試験で是非検討すべきと考えています。

序を終えるに当たり、私こと、このたび九防協の規定により3月31日をもって退職することになりました。2011年（平成23年）4月の新規採用以来11年間もの長い間、ともかくも大過なく勤務することができましたのは関係機関や会員の皆様のご支援、ご協力のおかげとあらためて心より感謝申し上げます。4月からは堤隆文代表理事（前常務理事）、山口純一郎常務理事（前佐賀県上場営農センター所長）、入江裕章、松永享子両事務局職員の新体制で九防協は新たな旅立ちを迎えます。九防協は引き続き九州の農産物の高品質・安定生産に寄与できる新たな病害虫防除の確立を目指していく所存ですので、関係機関や会員の皆様には今後とも倍旧のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2022年3月

一般社団法人 九州病害虫防除推進協議会

代表理事 山 中 正 博

# 目 次

## (序)

I	2021年度 事業概要	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	記念講話会		
	1. 九防協創立記念講話会 講師及びテーマ一覧	・・・・・・・・・・・・・・・・	2

## 2021年度 事業概要

2021年度も前年度に引き続き、国の新型コロナウイルス感染症蔓延防止措置要請に伴い、創立記念講話会等が当初の実施計画から外れた。また、実施を計画した事業もその後の感染状況が好転しなかったことから中止の止むなきに至ったものが多かった。

本会の最重要事業である農薬連絡試験の成績検討会、設計会議はかろうじて開催できたものの、試験実施機関の出席が少なかったため緊急的に Web での参加を認め変則的な検討となった会議もあった。また、本会の重要会議である運営委員会、運営会議は書面開催とし、規約の改定をおこなった。

1月に2022年度の役員人事に関する臨時評議会（旧規約の運営会議）を書面で開催した。

年月日	行 事	場 所	備考
2021			
4月21日(水)	業務監査(石原バイオ(株)、福岡県)	本会事務室	
4月27日(火)	運営委員会	書面会議	
5月17日(月)	運営会議	書面会議	
7月 5日(月)	野菜作(前期)成績検討会	福岡県消防会館	
8月23日(月)	麦作成績設計・野菜作(前期)設計会議	福岡県消防会館	
8月24日(火)	野菜作(前期)設計会議	福岡県消防会館	
8月24日(火)	「飢人地蔵」供養	納涼会は中止	
	第96回九技会研修会	中止	
10月28日(木)	果樹成績検討会	福岡県消防会館	
10月29日(金)	同上	福岡県消防会館	
11月29日(月)	普通作・野菜作(後期)成績検討会	西鉄イン福岡	
11月30日(火)	野菜作(後期)成績検討会	西鉄イン福岡	
12月14日(火)	茶樹成績検討会	福岡県消防会館	
	果樹技術研修会	中止	
2022			
	新年賀詞交歓会	中止	
1月14日(金)	臨時評議会	書面会議	
2月 8日(火)	茶樹設計会議	福岡ガーデンパレス	
2月21日(月)	果樹設計会議	福岡県消防会館	
3月 7日(月)	普通作・野菜作(後期)設計会議	福岡県消防会館	
3月 8日(火)	野菜作(後期)設計会議	福岡県消防会館	

# 九州防協創立記念講話会講師及びセミナー一覽

九州病害虫防除推進協議会  
(敬称略)

昭和44.5年7月29日 創立

年度(回)周年	九州農試	野菜試 久留米	果樹試 かんきつ部	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	外部	講師	
昭48(1)3		大和 茂八 (野菜栽培) 菅原 祐幸 (野菜作型)							後藤 重喜 (野菜作型と病害虫)				
昭49(2)4	木村 俊彦 (わい化病防除)			横山 佐太正 (わい化病発生と防除) 行徳 直己 (柑橘加害カミソノ種の生熊) 内田 信義 (柑橘加害カミソノ防除)					後藤 重喜 (柑橘加害カミソノ防除) 永井 清文 (柑橘加害カミソノ生熊)				
昭50(3)5		木崎 皓 (野菜病害問題点)			関 道生 (カミソノ薬剤抵抗性)			藤川 隆 (いもち病菌レス)				福田 秀夫 (農水省) 農業行政の現状と今後	
昭51(4)6	古田 力 (水稲病害虫)			宮原 実 (果実カミソノ類の生熊)		樋口 泰三 (コナノハナ 北西九州)	小林 研三 (野菜病害虫防除)			原 敬一 (コナノハナ 南九州)			
昭52(5)7	渡辺 文吉郎 (稲穂枯れ生熊) 孫工 弥寿雄 (大型種子消毒法)	手塚 信夫 (灰色かび耐性菌)		吉田 桂輔 (穂枯れ防除)			山本 滋 (柑橘病害虫防除)						
昭53(6)8	新海 昭 (稲ウイルス病)				宮原 和夫 (ワカボロ 北九州)				川越 仁 (野菜病害虫発生動向)			原 敬一 (ワカボロ/南九州) 河野 通昭 (柑橘病害虫防除)	
昭54(7)9	平尾 重太郎 (稲害虫発生動向)			吉田 桂輔 (種子消毒と箱施薬)				渡辺 豊 (スアノガラ防除)				山下 幸彦 (野菜病害虫の現状)	
昭55(8)10	<b>創立十周年記念式</b>												
昭56(9)11	茂木 純夫 (紋枯病防除適期)	藤原 敏夫 (ワカボロ根腐萎凋病とセノコノ類との関係) 木曾 晴 (ワカボロ根腐萎凋病に關する研究成果)	田中 学 (殺ダニ剤)			新須 利則 (ワカボロ根腐萎凋病の発生と防除)							石倉 秀次 (残留農薬研) 植物防疫の今後
昭57(10)12	和田 節 (北九州のワカボロ/ワカボロ)				貞松 光男 (果樹病害虫防除)								西沢 正彦 (三栄化学) インドネシアの植物防疫
昭58(11)13		梶原 敏夫 (野菜花害虫防除)	久原 重松 (柑橘病害虫防除)					岡留 善次郎 (野菜病害虫)					福田 秀夫 (金農) 農業をめぐる諸問題
昭59(12)14	中國 和年 (九州での綿虫問題)			酒井 久夫 (水稲害虫発生動向)			冨人 章 (施設野菜病害虫)	甲斐 一平 (柑橘薬剤防除)					三原 義秋 (元千葉大学・秋田代表者) 細露の発生方法と農業上の利用
昭60(13)15				田中 謙人 (野菜病害虫発生動向)		大久保 喜雄 (チャキキョウ病/スアノ)							栗田 年代 (日植防) 農業開発におけるバイオテクノロジー
昭61(14)16	野馬 誠也 (ワカボロ/根腐細菌病)	孫工 弥寿雄 (野菜病害虫発生動向)	氏家 武 (天敵利用害虫防除)				清田 洋次 (スアノ/スアノ)						
昭62(15)17	新海 昭 (ワカボロ/病害虫発生動向)			山田 健一 (落葉果樹害虫)	松崎 正文 (佐賀の野菜病害)								深町 三朗 (稲ウナカ防除)
昭63(16)18	風野 光 (農薬が環境)												川越 仁 (野菜の主要病害)
平 1(17)19				村岡 基 (チャキキョウ発生子繁)		小川 義雄 (海外飛来性害虫)							特田 作 (農研センター) 東南アジアのトビイロウンカ
													禮久 保 (ピワ灰斑病)

創立二十周年記念式

年度(回)周年	九州農試	野菜試 久留米	果樹試 カツヤ部	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	外部	講師	
平2(18) 20		野菜試 久留米		福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県		岩本 毅(日植防)国際化と植物防疫 小平 祐(農業工業会)GIFAPについて	
平3(19) 21	夔川 一成 (飛葉シカ管理技術)	小林 紀彦 (野菜土壌病害)				森田 昭 (キイ花際細菌病)	奥原 國英 (施設野菜害虫)						
平4(20) 22			駒崎 進吉 (アブラムシ 抵抗性)	吉村 大三郎 (イネのみ枯細菌病)				吉松 英明 (花き病害診断防除)	岡田 大 (普及現場からの話題)				
平5(21) 23	岩野 正敏 (いもち蔓延機構)						磯田 隆晴 (キイ果実軟腐病)			上和田 秀美 (キウイ柱虫取除)		藤原 純夫(佐賀大学) 長距離移動性昆虫	
平6(22) 24	法橋 信彦 (病害虫総合管理)	柏尾 昌俊 (天敵利用総合防除)		田代 暢哉 (ブドウ枝膨病)								高浪 洋一(九州大学) 植物ウイルス増殖機構	
平7(23) 25			菅原 亘 (果樹ハダニ)							野中善之(長女繁) (ハダニ類伝病伝入)		梶原 敏宏(日植防) 植物防疫の役割 松山 正明(九州大学) 植物病原菌間相互作用	
平8(24) 26	河本 征臣 (土壌微生物診断) 和田 節 (熱帯産卵のメカ)			大野 和朗 (天敵利用と問題点)				扶間 涉 (薬剤耐性菌現状と対策)				吉田 政博(九州東海大) メモロガンしゅう菌	
平9(25) 27	佐野 善一 (植物寄生性線虫)			大平 喜男 (果樹カメムシ類)		松尾 和敏 (イチゴコ粉害虫)						河原畑 勇(九州大学) 微生物農薬とその利用	
平10(26) 28	花田 薫 (トスボウイルス)							中尾 茂夫 (ブドウ枝膨病の生態)	三浦 猛夫 (施設栽培野菜の病害防除)			八重樫 博志(佐賀大学) いもち病	
平11(27) 29	西 和文 (南方さび病)						行徳 裕 (ミカンカイロアサミウマ)			神崎 保成 (茶病害虫防除)			菅原 敏夫(日植防)植物防疫を巡る最近の状況 福岡 秀夫(元残留農薬研究所)不思議な話
平12(28) 30													
平13(29) 31				堤 隆文 (果樹カメムシ類の最新動向)	山口 純一郎 (ナスすすずかび病)	森田 昭 (ヒワがんしゅう病)						湯川 淳一(九州大学) 昆虫に及ぼす地球温暖化の影響	
平14(30) 32	中島 隆 (イネいもち病)							佐藤 俊次 (バラブライの野菜)		瀬戸口 脩 (奄美の害虫相)		岩井 久(鹿児島大学) アフリカ大学での研究生活	
平15(31) 33	荒井 浩吉 (いもち病、雲形病)									田中 章 (研究35年を振り返って)		加来 久敏(植物病原微生物の感染の多様性と防除戦略)	
平16(32) 34					山口 純一郎 (DR1-D型性菌) 田代 暢哉(新しい病害虫管理)		古賀 成司 (熊本県におけるいでの病害虫)					大野 和明(宮崎大学) 天敵利用における発想の転換	
平17(33) 35				藤本 弘之 (福岡県の施設野菜におけるIPM一現状と今後の課題一)								大島 一里(佐賀大学) 植物ウイルスの拡散 石井 英夫(独)農業環境技術研究所) 葉刺耐性菌 堀 真雄(前住友化学株) 私が薫陶を受けた3人の研究者	

創立三十周年記念式

昭和45年7月29日 創立

(敬称略)

九州病害虫防除推進協議会

年度(回) 周年	九州農試	果樹試	カブヤリ部	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	外部講師
平18(34) 36	松村 正敏 (長距離移動性(卵)カ 類の発生動向)					横溝 義世敏(私が出 会った虫たち)	行徳 裕 (ダババノコノゾリ ミ巡る諸問題)	梶原 稔 (ミカンサビダニの 防除対策)			内田 又左衛門(農薬工業会) ボジティブリスト対策と農 食の安全安心 川上 清隆(全国植物検疫 協会) 我が国の植物検疫
平19(35) 37											高木 正良(九州大学) 九州における伝統的 生物防除の過去・未来
平20(36) 38								扶間 涉 ( <i>Caryospora cassiiicola</i> を巡る 諸問題)			土屋 健一(九州大学) 青枯病菌の多様性と病 害防除について 野中 福次(九州病害虫 防除推進協議会前会長) わが80余年の人生を 省みて
平21(37) 39					村岡 実 (佐賀県に於ける 果樹害虫の課題) 御厨 初子 (農薬を中心とし た佐賀県での研究)						高浪 洋一(九州病害虫 防除推進協議会会長) 農作物の病害と人間 の生活、歴史との関 わり 曾根 信三郎(バイエ ルエルケクロップサイ エンス) 農薬の開発から見た 植物防除
平22(38) 40											横山佐太正(前九州防 害常務理事) 九州病害虫防除推進 協議会創立40周年に 想う 上野雅子(日本植物防 疫協会技術顧問) 農薬の変遷と安全性 を巡る動き 松永和紀(科学フリ ーライター) 食の安全と環境 農薬の大きな役割を 再認識しよう～
平23(39) 41	和田 節 (水田害虫研究を振 り返って)				松崎 正文 ( <i>Phytophthora nicotianae</i> によ る付く疫病)						上和田 秀美 (鹿児島県におけ るシメズ根絶と奄美 の自然)
平24(40) 42											上宮 健吉(久留米大 学) チャット・グノコジ ラミの生態と分類 吉村 十三郎(前九州 防協常務理事) 九防協から(和)九防 協へ
平25(41) 43									今村 幸久 (研究の思い、臭 化メチル代替技術、 新奇発生病害対策)		清水 進(前九州大学 大学院教授) 天敵糸状菌による害 虫防除と問題 山中 正博(九防協 常務理事) チャバネアオカメム シの集合フェロモン を巡る諸問題
平26(42) 44											鈴木 芳人(前)中央農 業研究センター室長) 持続的IPMの要点：殺 虫剤抵抗性問題どう 対処するか
平27(43) 45							泰山 美穂 (野菜の難防除土 壌病害に対する臭 化メチル代替技術の 開発：ネコノカ 基腐敗病対策)		棚岡 義幸 (野菜の難防除土 壌病害に対する臭 化メチル代替技術の 開発：ネコノカ 基腐敗病対策)		樋口 博也(鎌倉大学 教授) 斑点米カメムシア ブアカヒゲホソドリ ミドリカサミ カメの発生子孫技 術の開発

一般社団法人発会式・創立四十周年記念講話会



年度(回) 周年	九州農試	野菜試 久留米	果樹試 かつや部	福岡県	佐賀県	長崎県 青藤弘 (ハレライソ青枯病菌の系統解明および発生生態と防除対策)	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	外部 講師
平28(44) 46											高木 正見(九州大学名誉教授) 侵入害虫の放飼による防除の試み 廣岡 卓(農業工業会事務局長) 食料生産の重要性と農業の役割
平29(45) 47											土屋 健一(九州大学名誉教授) 植物細菌病研究との41年 田辺 孝太郎(日本普通栽培フィードリサーチ システム) 殺菌剤の耐性菌対策に関わるFRACの取り組み 内山 徹(静岡県農林技術研究所茶業研究センター主任研究員) チャノコカクモンハマキの殺菌剤抵抗性および本種の成虫期防除に関する九州協との連携
平30(46) 48				菊原 賢次 (キウイフルーツか いよう病Psa3系 統の発生生態と防 除対策)	高浦 信一郎 (佐賀県における タマネギギベと病 の被害と本病の 防除対策につい て)				松浦 明 (宮崎県で確認され たネオニコチノイド 剤抵抗性ワタアブラ ムシの薬剤感受性と 生物学的性質)		
2019(46) 49	平八重 一之 (研究者生活33 年間を振り返って)									井上 栄明 (研究余証～昭 和から平成にか けその害虫防除 試験について～)	中野 昭雄(徳島県立農林水産総合技術支 援センター高度技術支援課副課長) 徳島県 のモモ産地におけるクビアカツヤカミヤギ の発生状況とその防除対策について
2020(47) 50											
2021(48) 51											

新型コロナウイルス感染症蔓延のため中止